

令和6年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

学校名(静岡県立浜松城北工業高校)

1. 取組についての評価

・浜松城北工業高校、浜松市、教育委員会、ヤマハ発動機が連携して、「専門高校と地域を代表する企業が連携して次世代の地域産業人材育成」というマイスター・ハイスクールの目的を実践しているモデルケースとして評価している。先生方の指導やマネジメントのやり方が秀逸で、生徒が主体となり自分ごとで取り組むことができていることが一番の評価ポイントであると考えている。

・本拠点の取り組みで、先生・生徒が変わり、学校が変わり、企業が変わり、地域が変わることを示せたのではないかなと思う。海外インターンシップなども含めて、次世代のグローバル人材を育成していただくことにも期待する。

・まさに、本事業の先行かつ優良事例であると思う。世界企業である「ヤマハ発動機株式会社」との太いパイプが「出口戦略」として取り組みのキモになっている印象がある。また、どのような人を育てどんな地域を作りたいのか、「静岡県の新ビジョン」や「はままつ産業イノベーション構想」を踏まえ、本事業を手段としてうまく活用している点にも好感が持てる。目的・目標と手段がしっかり整理されており、事業関係者がそれぞれ自分の役割を理解しているように思う。

・浜松城北工業高校の生徒が主導した自校での成果発表会の動画を拝見した。活動や発表を行う生徒たちの生き生きした姿や楽しそうな表情を見るだけでも事業成果が伝わって来た。

2. 今後の課題と考えられること

・事業終了後の自走に関して自治体、学校、企業など地域で具体的な協議の進展を望みます。

・カタチ(推進体制)は概ね完成しているように感じた。取り組みに係る事業予算が確保できれば自走も可能だと思う。強いて改善点をあげれば、浜松市と浜松城北工業高校のブランド向上か。人材が他の地域に流出しないよう地域で働く魅力をどのように生徒や先生に打ち込むか、また、次世代の生徒を確保するため地域の小中学生への働きかけも課題ではないかと感じた。